



JABEE対応教育プログラム  
「都市デザイン工学応用コース」

# 履修の手引き

2022(令和4)年度入学生用

学籍番号	氏名

# 目次

1. 教育プログラム「都市デザイン工学応用コース」について	1
1.1 概要	1
1.2 育成しようとする技術者像及びアドミッション・ポリシー	1
1.3 学習・教育到達目標	1
1.4 履修対象者	3
1.5 履修科目	4
1.6 評価方法と評価基準	4
1.7 学習・教育目標に対する達成度の継続的な点検	4
1.8 修了要件	5
2. 日本技術者教育認定機構（J A B E E）について	6
資料	
1 学習・教育到達目標と基準 1 の(1)の(a)～(h)との対応	7
2 年次別授業科目配当表	8
3 「都市デザイン工学応用コース」履修者登録願	10
4 「都市デザイン工学応用コース」履修者登録変更願	11
5 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ	12
6 単位修得状況チェックシート	13



## 1. 教育プログラム「都市デザイン工学応用コース」について

### 1.1 概要

この手引きは、「九州産業大学建築都市工学部授業科目履修規程」、「九州産業大学建築都市工学部都市デザイン工学科都市デザイン工学応用コース履修要領」及び「履修ガイド」の規定に基づき、教育プログラム「都市デザイン工学応用コース」（以下「応用コース」という）に関し、必要な事項を定めるものとする。

### 1.2 育成しようとする技術者像及びアドミッション・ポリシー

（育成しようとする技術者像）

本プログラムが目指すべき人物像は、「実社会で土木構造物、まち・建物、環境・緑化をデザイン・施工管理する技術者である。具体的到達目標は、幅広い学問的知識を習得し、地球環境に配慮できる素養を身につけることである。」と定めている。

（アドミッション・ポリシー）

都市デザイン工学応用コースでは、以下の条件を満たす学生を受け入れる。

- 1 都市デザイン工学応用コースが育成しようとする技術者を目指す意欲を有する学生
- 2 都市デザイン工学応用コースの修了に必要な学修の基礎が3年前期の開始時点で修得できている学生

### 1.3 学習・教育到達目標

「土木デザイン分野」、「都市防災分野」、「まちづくり分野」、「環境緑化分野」の4分野を柱とし、橋梁や建築などの構造物や街並みの設計・デザイン、生態系の保全まで、幅広い分野の技術と知識の修得を目指し、住みよいまちづくりを学び研究する。学習・教育到達目標はつぎのとおりである。

- (A) 幅広い学問的知識を習得し、地球環境に配慮できる素養を身につける。
- (B) 技術者としての社会に対する責任と倫理観を身につける。
- (C) 情報処理に関し、基礎知識および実務的处理能力を身につける。
- (D) 数学および自然科学の基礎知識および応用能力を身につける。
- (E) 構造力学、地盤工学、建設材料工学、水理学、まちづくり学、測量学の各分野の基礎知識および応用能力を身につける。
- (F) 実験・実習科目を通して、理論に対する理解を深めるとともに、現象を正確に把握する能力を身につける。
- (G) 演習科目を通して、自ら学習する能力を身につけるとともに、自然と調和したデザイン能力を習得する。
- (H) 実務的な専門知識と応用技術を身につける。
- (I) 日本語による簡潔な文章表現能力、コミュニケーション能力、口頭発表能力を身につけ、英語を通して異なる国の人と仕事のできる基礎的能力を習得する。
- (J) 自主的に学習し、それを継続できる生涯学習能力を身につける。
- (K) 都市デザイン工学の専門知識を総動員し、与えられた制約の下で、社会に役立つ実務を計画・遂行する能力を身につける。

学科の学習・教育到達目標と JABEE の基準の対応は、資料 1 (表-1) に示すとおりである。

## 1.4 履修対象者

### (1) 応用コース登録要件

応用コースに登録するには、2年次終了までに、資料2（年次別授業科目配当表）のうち、次の要件を満たさなければならない。

- ① 構造力学Ⅰ、構造力学Ⅱ、地盤工学Ⅰ、地盤工学Ⅱ、水理学Ⅰ及び水理学Ⅱのうち8単位以上を修得していること
- ② 1、2年次に配当されている「専門必修科目」並びに構造力学演習Ⅰ、地盤工学演習Ⅰ、水理学演習Ⅰ、まちづくり学演習、応用測量学、都市防災学Ⅰ、建設材料工学演習、情報処理演習、植物学、応用生態学のうち50単位以上を修得していること。
- ③ 「基礎教育科目」を12単位以上修得していること
- ④ 「外国語科目」を4単位以上修得していること

### (2) 登録

応用コースにおける技術者教育プログラムを履修しようとする者は、所定の期日までに資料3の「都市デザイン工学応用コース履修者登録願」により願い出なければならない。

### (3) 登録者の卒業研究着手要件

応用コースに登録した者は、別表（年次別授業科目配当表）のうち、次の要件を満たさなければ卒業研究を履修することができない。

- ① 卒業に必要な124単位のうち、「卒業研究及び卒業実習以外」すべての単位を修得していること
- ② 構造力学演習Ⅰ、地盤工学演習Ⅰ、水理学演習Ⅰ、まちづくり学演習、植物学、情報処理演習、応用測量学、都市防災学Ⅰ、建設材料工学演習、応用生態学、土木統計学、河川工学、構造力学演習Ⅱ、地盤工学演習Ⅱ、水理学演習Ⅱ、景観デザイン演習、土木デザイン実習、コンクリート構造工学Ⅱ、緑化工学、インターンシップの単位を修得していること

#### (4)コースの変更

応用コースから都市デザイン工学科都市デザイン工学一般コース（以下「一般コース」という）への変更を希望する者は、年度始めの所定の期日までに、資料4の「都市デザイン工学応用コース履修者登録変更願」により願い出なければならない。

応用コースから一般コースへ変更した者は、応用コースに再登録することはできない。

#### 1.5 履修科目

学習・教育目標と履修科目との関係は、シラバスおよび資料5の「学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ」に示すとおりである。

#### 1.6 評価方法と評価基準

履修科目の評価方法と評価基準は、学生便覧および各科目のシラバスに示すとおりである。

#### 1.7 学習・教育到達目標に対する達成度の継続的な点検

学習・教育到達目標と履修科目との関係から、資料6の「単位修得状況チェックシート」で学習・教育到達目標の達成度を継続的に点検し、その学習に反映させなければならない。

各学年の前期学期末・後期学期末に、担任と面談し、担任に「単位修得状況チェックシート」を提出すること。

## 1.8 修了要件

応用コースを修了するには、卒業研究の単位を修得し、履修規程第2条に定められた卒業に必要な124単位以上（専門必修科目：56単位、専門選択科目：48単位以上、基礎教育科目：14単位以上、外国語科目：英語6単位以上）を、修得しなければならない。

## 2. 日本技術者教育認定機構(JABEE)について

この教育プログラムは、2009年5月に日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を受けた。これにより、平成20年度の修了生から、技術士第一次試験(建設部門)合格と認定され技術士補の資格を取ることができる。技術士補として技術士を補助した期間が4年(大学院修了後実務経験2年)をこえる者は、技術士第二次試験(建設部門)に合格すると技術士(建設部門)となることができる。

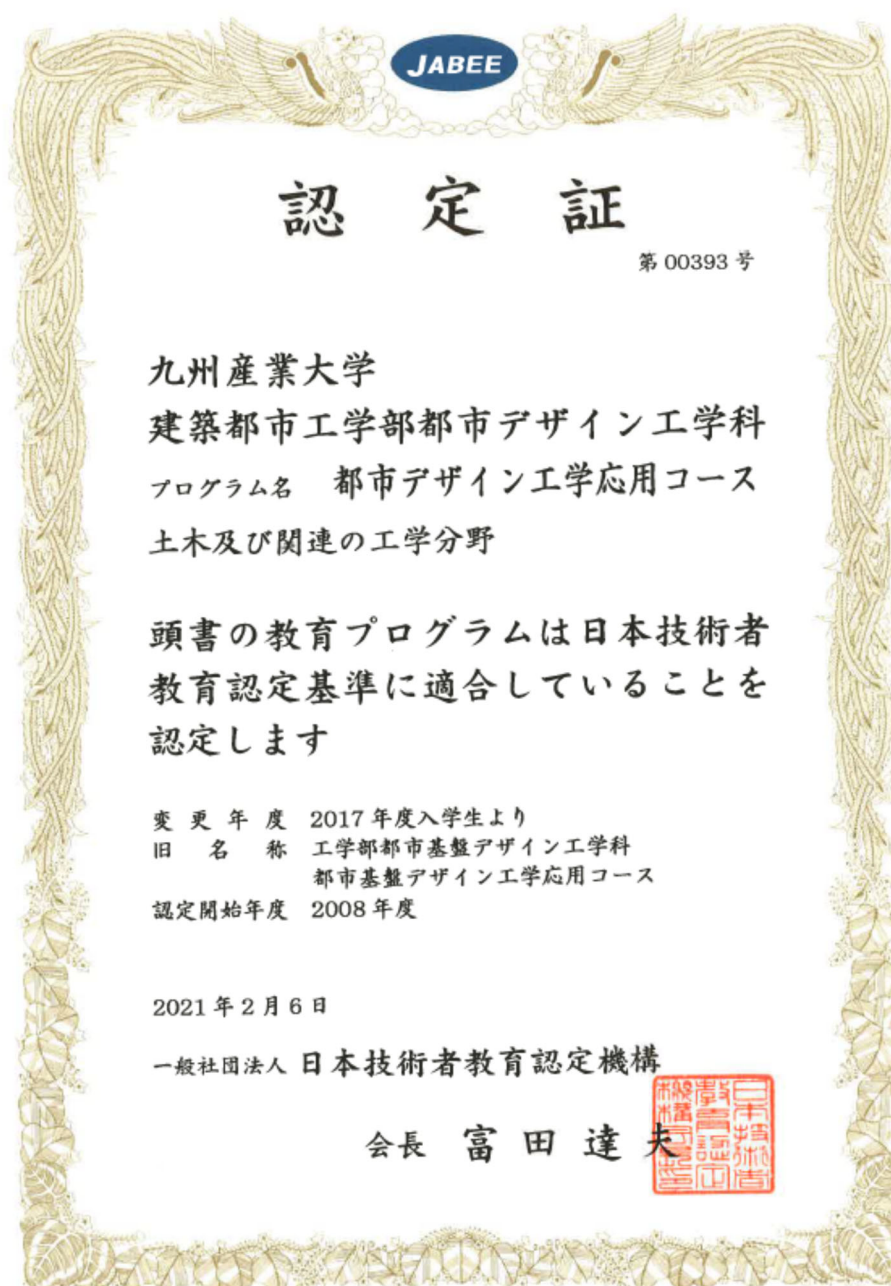




表-1 学習・教育到達目標と基準1(2)の(a)～(i)との対応

基準1(2)の 知識・能力 学習・教育 到達目標	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)
(A)	◎								
(B)		◎							
(C)			◎						
(D)			◎	◎					
(E)				◎					
(F)				◎					◎
(G)				◎	◎				○
(H)				◎					
(I)						◎			
(J)							◎		
(K)					◎			◎	○

## [JABEEで要求される知識・能力]

- (a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
- (b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対する貢献と責任に関する理解
- (c) 数学、自然科学及び情報技術に関する知識とそれらを応用する能力
- (d) 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力
- (e) 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
- (f) 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
- (g) 自主的、継続的に学習する能力
- (h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
- (i) チームで仕事をするための能力

## [本学科で科目ごとに設定している到達目標]

- (A) 幅広い学問的知識を習得し、地球環境に配慮できる素養を身につける。
- (B) 技術者としての社会に対する責任と倫理観を身につける。
- (C) 情報処理に関し、基礎知識および実務的処理能力を身につける。
- (D) 数学および自然科学の基礎知識および応用能力を身につける。
- (E) 構造力学、地盤工学、建設材料工学、水理学、まちづくり学、測量学の各分野の基礎知識および応用能力を身につける。
- (F) 実験・実習科目を通して、理論に対する理解を深めるとともに、現象を正確に把握する能力を身につける。
- (G) 演習科目を通して、自ら学習する能力を身につけるとともに、自然と調和したデザイン能力を習得する。
- (H) 実務的な専門知識と応用技術を身につける。
- (I) 日本語による簡潔な文章表現能力、コミュニケーション能力、口頭発表能力を身につけ、英語を通して異なる国の人と仕事のできる基礎的能力を習得する。
- (J) 自主的に学習し、それを継続できる生涯学習能力を身につける。
- (K) 都市デザイン工学の専門知識を総動員し、与えられた制約の下で、社会に役立つ実務を計画・遂行する能力を身につける。

表-2 年次別授業科目配当表

(凡例) ゴシック体の科目：応用コースを修了するために必ず修得しなければならない科目

建：建築士試験の受験資格要件（指定科目）、ピ：ピオトップ管理士試験一部免除科目、環：環境再生医対応科目

区分	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
専 門 科 目	必 修	建築都市入門	2	建 構造力学Ⅱ	2	環境水理実習	2	卒業研究 卒業実習	6 4
		基礎数学	2	建 地盤工学Ⅱ	2	応用ゼミナール	2		
		基礎物理	2	建 水理学Ⅱ	2	建 コンクリート構造工学Ⅰ	2		
		設計製図Ⅰ	2	建 建設材料実験	2	建 技術者倫理	2		
		水理学Ⅰ	2	建 建設CAD演習	2				
		建 構造力学Ⅰ	2	建 まちづくり学	2				
		建 地盤工学Ⅰ	2	建 景観デザイン	2				
		建 グリーンインフラ論	2						
		建 基礎測量学	2						
		建 測量学実習	2						
		建 建設材料工学	2						
		建 基礎環境学	2						
	環	植物学	2	都市防災学Ⅰ	2	構造力学演習Ⅱ	2	施工管理学	2
		情報処理演習	2	応用測量学	2	地盤工学演習Ⅱ	2	海岸港湾工学	2
				水理学演習Ⅰ	2	水理学演習Ⅱ	2	建 耐震工学	2
				構造力学演習Ⅰ	2	河川工学	2	建 建築製図Ⅱ	2
				地盤工学演習Ⅰ	2	土木デザイン実習	2		
			建	建設材料工学演習	2	土木統計学	2		
			ビ	環境生態学	2	建 景観デザイン演習	2		
				生態学	2	建 コンクリート構造工学Ⅱ	2		
				都市防災学Ⅱ	2	環 緑化学	2		
				設計製図Ⅱ	2	環 インターンシップ	2		
				工業概論	2	植物生態学演習	2		
			建	まちづくり学演習	2	都市防災学演習	2		
			建	建築設計製図	2	道路工学	2		
						水環境工学	2		
						橋梁工学	2		
						プログラミング入門	2		
						職業指導	2		
						建 建築生産	2		
						建 建築法規	2		
						建 構造力学Ⅲ	2		
						ビ 環境法規	2		
						建 建築製図Ⅰ	2		
						建 保存修景計画	2		
						建 建築デザイン	2		

※1 建築士試験の受験資格要件（指定科目）である科目については、2年次「建築設計製図」の単位取得を履修要件とすることがある。

表-3 年次別授業科目配当表

区分	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次			
	授業科目 (単位)		授業科目 (単位)		授業科目 (単位)		授業科目 (単位)			
基礎教育科目	科目導入	大学スタディスキル (2)								
	学修基礎	実用国語 (文章力) (2)		実用国語 (伝達力) (2)						
		実用数学 (計算力) (2)		実用数学 (活用力) (2)						
		AI導入 (2)								
		プログラミング導入 (2)								
	キャリア	キャリア形成基礎論 (2)		キャリア開発論 (2)		キャリア形成戦略 (2)				
		主権者リテラシー (2)								
		消費者リテラシー (2)								
		九産大力 (2)								
	文理芸術融合科目	クロス	実践クロス講座 (2)				インタラクティブディスカッション (2)			
実践クロス演習 (2)										
科目	人文科学科目	実践クロス演習 (2)								
		実践力育成演習 (2)								
	社会科学科目	課題解決演習 (2)								
		教養講座 (2)								
		クロス	実践コラボ講座 (2)							
			実践コラボ演習 (2)							
		社会科学科目	日本の歴史 (2)							
			世界の歴史 (2)							
			哲学の世界 (2)							
			文学の世界 (2)							
社会科学科目	心理学の世界 (2)									
	文化人類学 (2)									
	美学・美術史 (2)									
	芸術の世界 (2)									
社会科学科目	人文科学の世界 (2)									
	法学 (2)									
	日本国憲法 (2)									
	現代の政治 (2)									
社会科学科目	地理の世界 (2)									
	人権・同和問題 (2)									
	ジェンダーと社会 (2)									
	社会科学の世界 (2)									
自然科学科目	科学の世界 (2)									
	地球環境 (2)									
	生物の世界 (2)									
	くらしの中の数学 (2)									
健康科目	自然科学の世界 (2)									
	スポーツ科学演習 (2)									
外国語科目	共通英語	心と身体の健康 (2)								
		Reading & Writing I (1) Reading & Writing II (1) Reading & Writing III (1) Reading & Writing IV (1)								
	キョウブライティングシステム	Listening & Speaking I (1) Listening & Speaking II (1) Listening & Speaking III (1) Listening & Speaking IV (1)								
		English Plus (1)								
		English Expressions (2)								
		Four Skills I (2) TOEIC Plus (2)								
	初修外国語科目	Four Skills II (2) Reading Focus (2)								
		Labo Training I (1) Writing Focus (2)								
		Labo Training II (1) Business English (2)								
		Domestic Job Training (4) English Pronunciation (2)								
初修外国語科目	Overseas Job Training (4) Introduction to Translation (2)									
	Global Perspectives (2)									
	ドイツ語 I (1) ドイツ語 II (1) ドイツ語 III (1) ドイツ語 IV (1)									
	ドイツ語会話 I (1) ドイツ語会話 II (1) ドイツ語会話 III (1) ドイツ語会話 IV (1)									
	フランス語 I (1) フランス語 II (1) フランス語 III (1) フランス語 IV (1)									
	フランス語会話 I (1) フランス語会話 II (1) フランス語会話 III (1) フランス語会話 IV (1)									
	韓国語 I (1) 韓国語 II (1) 韓国語 III (1) 韓国語 IV (1)									
	韓国語会話 I (1) 韓国語会話 II (1) 韓国語会話 III (1) 韓国語会話 IV (1)									
	実用韓国語 (1) 上級韓国語 (1)									
	中国語 I (1) 中国語 II (1) 中国語 III (1) 中国語 IV (1)									
中国語会話 I (1) 中国語会話 II (1) 中国語会話 III (1) 中国語会話 IV (1)										
実用中国語 (1) 上級中国語 (1)										

※「クロス科目」は、各学部の学生が交差(クロス)して取り組む授業科目を指す。  
 ※「コラボ科目」は、各学部の教員が協働(コラボレーション)して実施する授業科目を指す。

区分	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		
	授業科目 (単位)		授業科目 (単位)		授業科目 (単位)		授業科目 (単位)		
関係する科目	日本語	アカデミック日本語 (読む・書く) A (1) アカデミック日本語 (聞く・話す) A (1)		実践アカデミック日本語 (読む・書く) A (1) ビジネス日本語 (1)		グローバル日本語 (1)			
		アカデミック日本語 (読む・書く) B (1) アカデミック日本語 (聞く・話す) B (1)		実践アカデミック日本語 (読む・書く) B (1)					
事情本	日本語	アカデミック日本語 (読む・書く) C (1) アカデミック日本語 (聞く・話す) C (1)		実践アカデミック日本語 (聞く・話す) A (1)					
		アカデミック日本語 (読む・書く) D (1) アカデミック日本語 (聞く・話す) D (1)		実践アカデミック日本語 (聞く・話す) B (1)					
		アカデミック日本語 (読む・書く) E (1) アカデミック日本語 (聞く・話す) E (1)							
		日本の歴史 I (2) 日本の歴史 II (2) 日本の文化 I (2) 日本の文化 II (2)							
日本の政治経済 I (2) 日本の政治経済 II (2) 一般日本事情 I (2) 一般日本事情 II (2)									

年 月 日

J A B E E 対応教育プログラム  
「都市デザイン工学応用コース」履修者登録願

九州産業大学建築都市工学部長 殿

九州産業大学建築都市工学部授業科目履修規程、九州産業大学建築都市工学部都市デザイン工学科都市デザイン工学応用コース履修要領、履修ガイド及び履修の手引きの規定を理解した上で、J A B E E 対応教育プログラム「都市デザイン工学応用コース」の履修者として登録します。

九州産業大学建築都市工学部都市デザイン工学科

学生番号 \_\_\_\_\_

氏 名 \_\_\_\_\_ 印

年 月 日

J A B E E 対応教育プログラム  
「都市デザイン工学応用コース」履修者登録変更願

九州産業大学建築都市工学部長 殿

J A B E E 対応教育プログラム「都市デザイン工学応用コース」の履修者として登録しましたが、九州産業大学建築都市工学部都市デザイン工学科都市デザイン工学応用コース履修要領第6条に基づき、下記の理由により「一般コース」へ変更します。

変更理由 \_\_\_\_\_

九州産業大学建築都市工学部都市デザイン工学科

学生番号 \_\_\_\_\_

氏 名 \_\_\_\_\_ 印

表-5 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ

学習・教育 の目標	授業科目名							
	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A)	基礎教育科目							
				建築設計製図 (△建)	建築生産 (△建)	建築製図 I (△建)	建築製図 II (△建)	住居環境入門 (他建)
					保存修景学 (△建)	建築法規 (△建)	住居設備 (他建)	建築史 (他建)
					住宅構法概論 (他建)	建築デザイン (△建)	施設計画 (他建)	住宅計画 (他建)
			工業概論 (△教職)	職業指導 (△教職)				
(B)	グリーンインフラ論 (◎)	建築都市入門 (◎)				技術者倫理 (◎)		
(C)		情報処理演習 (○)	建設CAD演習 (◎)		プログラミング入門 (△)			
(D)	基礎数学 (◎)							
	基礎物理 (◎)							
	基礎環境学 (◎)	植物学 (○)	生態学 (△)	応用生態学 (○)	緑化学 (○)			
(E)		構造力学 I (◎)	構造力学演習 I (○)	構造力学 II (◎)	構造力学演習 II (○)	構造力学 III (△)		
		建設材料工学 (◎)	建設材料工学演習 (○)		コンクリート構造工学 I (◎)	コンクリート構造工学 II (○)		
		地盤工学 I (◎)	地盤工学演習 I (○)	地盤工学 II (◎)	地盤工学演習 II (○)			
		水理学 I (◎)	水理学演習 I (○)	水理学 II (◎)	水理学演習 II (○)			
			まちづくり学 (◎)			土木統計学 (○)		
	基礎測量学 (◎)		応用測量学 (○)					
(F)		測量学実習 (◎)	建設材料実験 (◎)		環境水理実習 (◎)	土木デザイン実習 (○)		
(G)		設計製図 I (◎)		設計製図 II (△)	植物生態学演習 (△)			
				まちづくり学演習 (○)	景観デザイン演習 (○)			
					都市防災学演習 (△)	応用ゼミナール (◎)		
(H)			都市防災学 I (○)	都市防災学 II (△)	河川工学 (○)	水環境工学 (△)	耐震工学 (△)	
				景観デザイン (◎)	環境法規 (△)		海岸港湾工学 (△)	
					道路工学 (△)	橋梁工学 (△)	施工管理学 (△)	
					インターンシップ (○)			
(I)	外国語科目							
						応用ゼミナール (◎)	卒業実習 (◎)	
(J)							卒業研究 (◎)	
(K)							卒業研究 (◎)	

基礎教育科目、外国語科目の詳細については【資料2】を参照

◎: 必修科目      △: 選択科目  
○: 応用コースを修了するために必ず修得しなければならない科目

都市デザイン工学科 単位修得状況チェックシート (2022年度以降入学者用)

各科目の単位修得状況チェック (単位を修得した科目は、「修得」の欄に○を記入)
基礎教育科目については、各科目群の修得単位数を記入

Table with columns for 1st to 4th year courses, units, and completion status. Includes sections for (A) through (K) covering various subjects like design, science, and language.

(凡例) \*: 必修科目, □: 選択科目, ■ゴシック体の科目: 応用コースを修了するために必ず修得しなければならない科目
建: 「正規の建築に関する課程」該当科目
※学習教育目標Aの建築士受験資格指定科目は、2年後期の「建築設計製図」の単位を修得済の建築士を目指す学生であることが履修要件

【担任記入 面談記録】
□ チェックシートの学習・教育目標の達成度を確認した。
□ 応用コースの履修について適切な履修指導を行った。
□ 単位修得状況を把握し、適切な履修指導を行った。
□ 資格取得について指導をおこなった。
□ 面談内容をK's Life!に登録した。
その他 (学生の要望・質問、面談内容)

【1、2年生のみ記入】
■第3・4年次配当科目履修要件チェック
基礎数学 (必須)
基礎物理 (必須)
全修得単位数 (56単位以上必要)
判定
■応用コース登録要件チェック
構造力学 I
地盤工学 I
水理学 I
構造力学 II
地盤工学 II
水理学 II
建築都市入門
基礎数学
基礎物理
基礎測量学
基礎環境学
グリーン化論
測量学実習
情報処理演習
設計製図 I
植物学
建設材料工学
構造力学演習 I
地盤工学演習 I
水理学演習 I
まちづくり学
建設材料実験
土木デザイン実習
■全員記入
学習・教育目標等に対する要望

要件チェックの方法
・欄外にOor×と書かれている項目では、当該科目の単位を修得していれば○を、そうでなければ×を記入して下さい。
・欄外に数値と書かれている項目では、修得単位数を記入して下さい。
・判定欄は、\*の付いた項目の結果が同項目左欄のカッコ内の条件をすべて満たしていれば○を、そうでなければ×を記入して下さい。

【全員記入】
学習・教育目標の達成度 (除卒研・卒業)
(A) ( ) 単位取得 /14単位
(B) ( ) 単位取得 /6単位
(C) ( ) 単位取得 /4単位
(D) ( ) 単位取得 /12単位
(E) ( ) 単位取得 /40単位 +8単位
(F) ( ) 単位取得 /8単位
(G) ( ) 単位取得 /8単位
(H) ( ) 単位取得 /8単位
(I) ( ) 単位取得 /6単位
(計) ( ) 単位取得 /114単位
学習・教育目標の達成度および登録要件を確認して、希望するコースを丸囲みしてください。
希望コース: 応用コース 一般コース
学 年: 第 年次
学籍番号:
氏 名:

【3年生のみ記入】
■卒業研究着手要件チェック (全員)
第3年次配当科目の単位修得の有無 (第3年次配当科目の単位修得が必要)
①専門必修科目修得単位数 (40単位以上必要)
②専門選択科目修得単位数 (48単位以上の場合は48と記入)
③基礎教育科目修得単位数 (14単位以上の場合は14と記入)
④外国語科目修得単位数 (6単位以上の場合は6と記入)
卒業に必要な124単位のうち、修得した単位数 (上記①~④の単位数の合計を記入。94単位以上必要)
判定
■応用コース卒業研究着手要件チェック (応用コースのみ)
構造力学 I
地盤工学 I
水理学 I
構造力学 II
地盤工学 II
水理学 II
建築都市入門
基礎数学
基礎物理
基礎測量学
基礎環境学
グリーン化論
測量学実習
情報処理演習
設計製図 I
植物学
建設材料工学
構造力学演習 I
地盤工学演習 I
水理学演習 I
まちづくり学
建設材料実験
土木デザイン実習
■4年生のみ記入
■卒業要件チェック (卒業研究6単位及び卒業実習4単位を除く)
①専門必修科目修得単位数 (46単位必要)
②専門選択科目修得単位数 (48単位以上必要)
③基礎教育科目修得単位数 (14単位以上必要)
④外国語科目修得単位数 (英語6単位以上必要)
上記①~④の単位数の合計 (114単位必要)
判定